

## Renesas S5D9 用サンプル(ewarm WiFi\_Socket\_HTTP)の説明

### (ewarm Version:8.23.1 / SSP Version 1.5.3)

#### 1. Sample の免責について

- **Sample** に関する **Tel/Fax** でのご質問に関してはお受けできません。ただし、メールでのご質問に関してはお答えするよう努力はしますが、都合によりお答えできない場合もありますので予めご了承ください。
- **Sample** ソフトの不具合が発見された場合の対応義務はありません。また、この関連ソフトの使用方法に関する質問の回答義務もありませんので承知の上ご利用下さい。
- **Sample** ソフトは、無保証で提供されているものであり、その適用可能性も含めて、いかなる保証も行いません。また、本ソフトウェアの利用により直接的または間接的に生じたいかなる損害に関しても、その責任を負わないものとします。

#### 2. サンプルのプロジェクト名

ワークスペース名	概要	プロジェクト名
S5D9_ewarm_WiFi_NetX_3	PMODA に WiFi モジュール (GT202) を接続して、固定 IP アドレスによる HTTP と Socket 通信のサンプル	WiFi_Socket_HTTP_GT202_PMODA  ThreadX モードで動作  Socket 通信 (nx_tcp_socket_.....)  NetX HTTP Server (g_http_server0)

統合開発環境
IAR ewarm(Version 8.23.1)
SSP(Version1.5.3)

### 3. Tera Term Pro のインストール

- ① 「teraterm-4.80.exe」 を検索してダウンロードする。
- ② PC にインストールし実行する
- ③ シリアルポートの設定



COM 番号は、  
PC 側でシリアル通信可  
能な番号を指定する。

115200BPS  
8bit  
none  
1bit  
none  
の仕様にする。

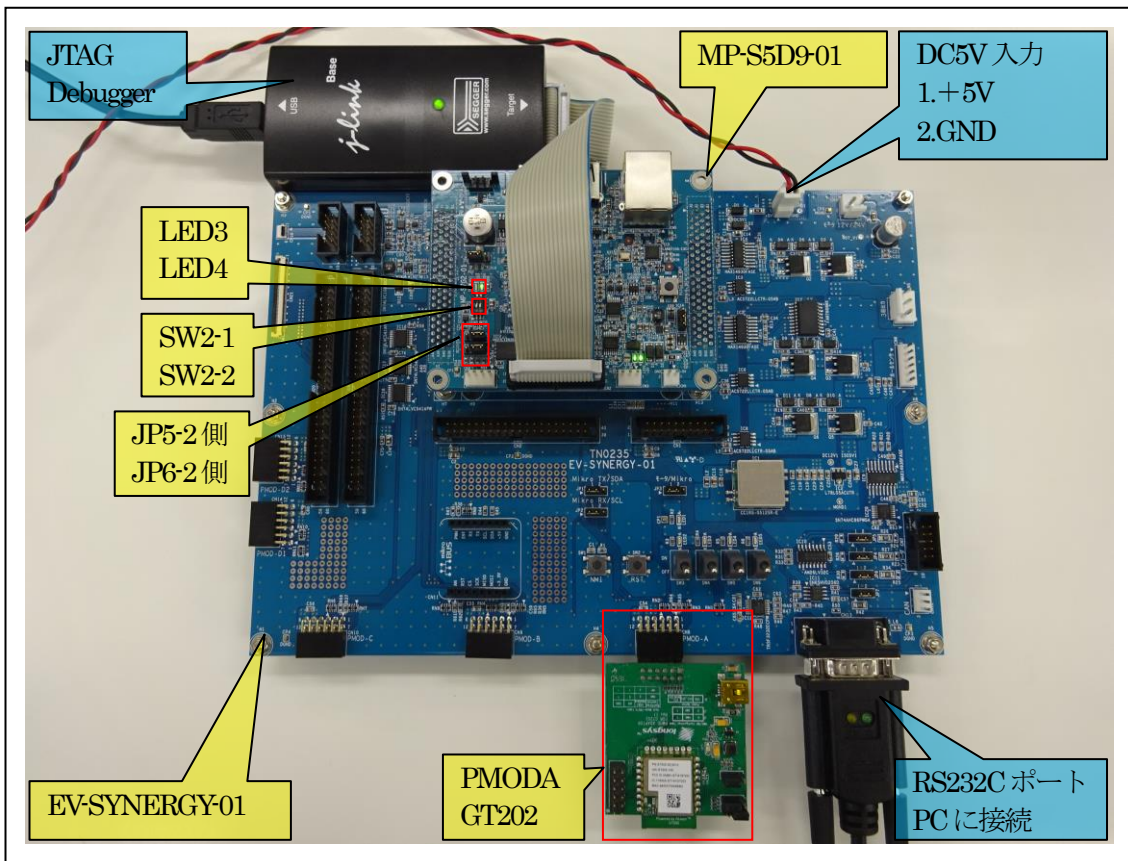
#### ④ 端末の設定



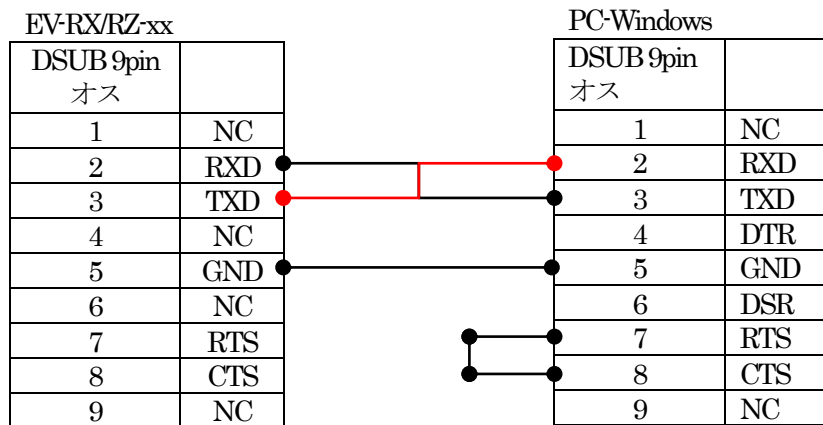
USB シリアルコンバー  
タ使用時に CR コードが  
カットされる設定の場合  
は、**受信 : LF** にして下  
さい。

赤枠の設定にする。

4. 動作構成



- ①PC機と接続するRS232Cケーブルは、市販「クロスケーブル」でも可能です。
- ②USB-シリアル変換ケーブルを使用される場合は、「StarTech.com 社 ICUSB232FIN」推奨
- ③自作する場合は、下記の配線になります。



## 5. 「S5D9\_ewarm\_WiFi\_NetX\_3」 サンプルの説明

## 5-1. 「WiFi\_Socket\_HTTP\_GT202\_PMODA」フォルダ構成とファイル名

S5D9_ewarm_WiFi_NetX_3\WiFi_Socket_HTTP_GT202_PMODA			
Debug	Exe	WiFi_Socket_HTTP_GT202_PMODA.out	ELF ファイル、JTAG で使用
		WiFi_Socket_HTTP_GT202_PMODA.srec	モトローラーHEX ファイル
	List	WiFi_Socket_HTTP_GT202_PMODA.map	MAP ファイル、アドレス情報管理
	Obj	その他	自動生成ファイル
MP-S5D9-01 (リンク指定)		dipsw.c	MP 基板上 DIP-SW 処理モジュール
		dipsw.h	dipsw.c 用ヘッダーファイル
		Led_blink.c	LED 処理モジュール
		led_brink.h	led_brink.c 用ヘッダーファイル
		sci2.c	シリアル通信処理モジュール
		sci2.h	sci2.c 用ヘッダーファイル
		stchar.h	文字系処理モジュール
	stchar.h	stchar.c 用ヘッダーファイル	
Script		S5D9.ld	ロケーション定義ファイル
Src		blink_thread_entryc	led blink thread サンプルファイル
		dipsw_thread_entryc	dipsw thread サンプルファイル
		http_server_fix_thread_entryc	HTTP server Thread サンプルファイル
		http_server.c	const html サンプルファイル
		http_server.h	http_server.c 用ヘッダーファイル
		Socket_thread_entryc	Socket server Thread サンプルファイル
		filex_stub.h	Filex 未使用時のダミーファイル
		(*1)http_server_fix_thread.c	synergy_gen 作成ファイル
		(*1)http_server_fix_thread.h	http_server_thread.c 用ヘッダーファイル
	synergy_gen	Generate を行うと作成されるファイル	
	synergy	Generate を行うと作成されるファイル	
	synergy_cfg		
	Configuration.xml	プロジェクト Generation ファイル	
	PIN-EV-SYNERGY-S5D9.pincfg	PIN configuration 用ファイル	
	その他	自動生成ファイル	

(\*1) 5-2. FileX を使用しない場合の手順 を参照

## 5-2. FileX を使用しない場合の手順

- ① <synergy\_gen>下記 2 ファイルを<src>に Copy する。

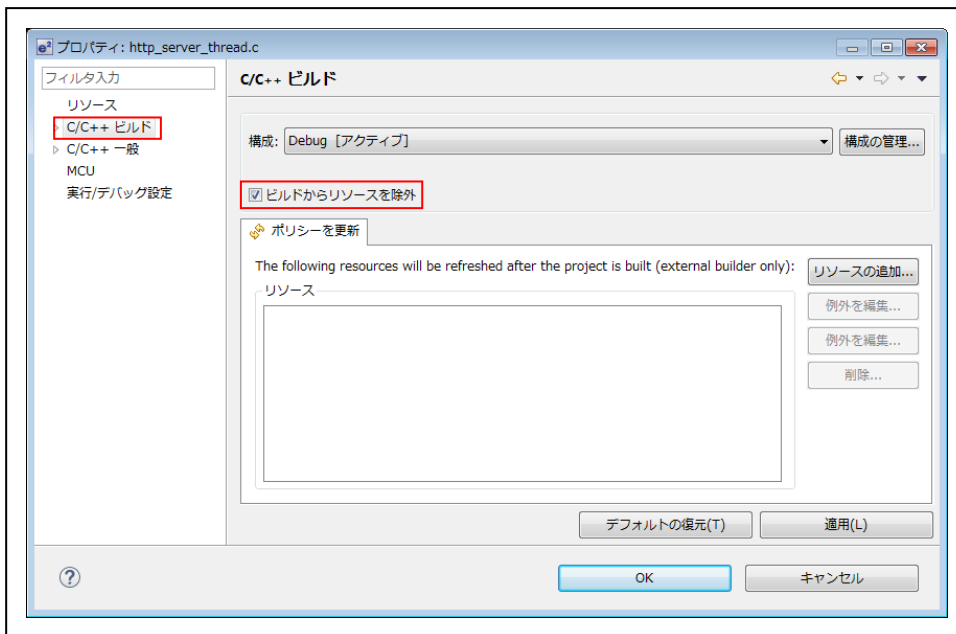
http\_server\_fix\_thread.c  
http\_server\_fix\_thread.h

- ② <synergy\_gen>下記 2 ファイルを「ビルド除外」にする。

http\_server\_fix\_thread.c  
http\_server\_fix\_thread.h

### <除外方法>

- (1) ファイルを選択してプロパティを指定する。
- (2) 「C/C++ビルド」を指定する。
- (3) 「ビルドからリソースを除外」にする。



- ③ <src>に Copy した「http\_server\_fix\_thread.c」内「void http\_server\_init0(void)」引数を変更する。

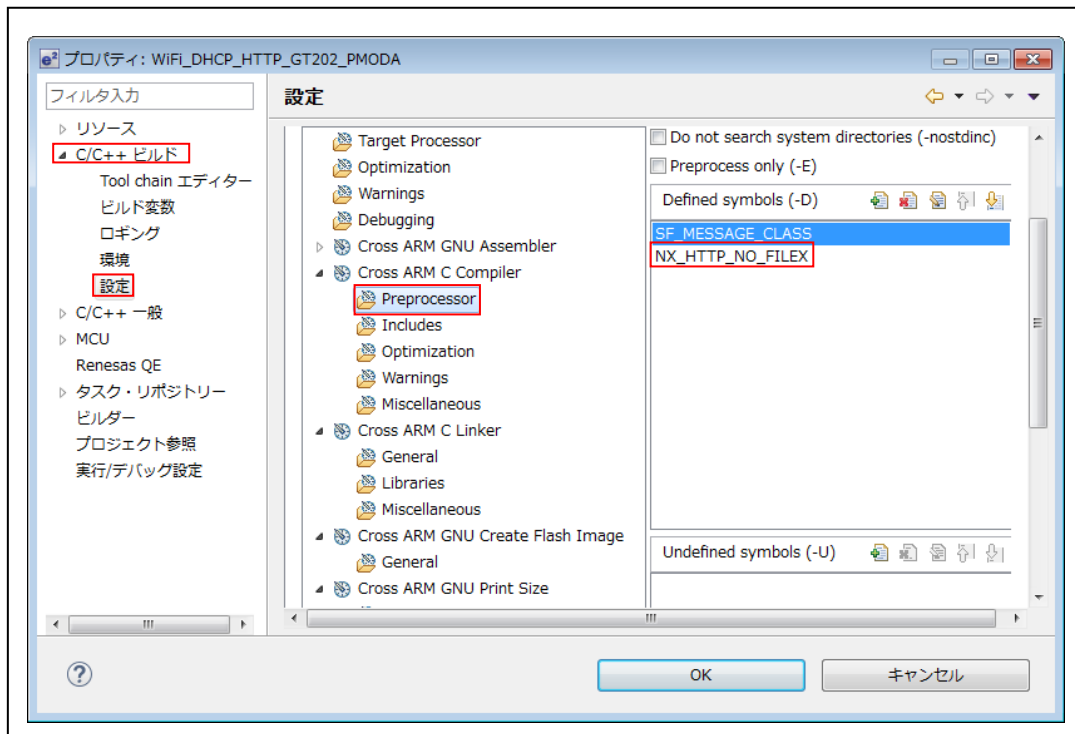
```
g_http_server0_err=nx_http_server_create(&g_http_server0,"g_http_server0 HTTP Server",&g_ip0,
&SYNERGY_NOT_DEFINED,&g_http_server0_stack_memory[0],4096,
↑NX_NULLに変更する。
```

```
g_http_server0_err=nx_http_server_create(&g_http_server0,"g_http_server0 HTTP Server",&g_ip0,
NX_NULL,&g_http_server0_stack_memory[0],4096,
&g_packet_pool0,authentication_check,request_notify);
```

- ④ <src>に Copy した「http\_server\_fix\_thread.h」に「#include "filex\_stub.h"」を追記する。

```
#include "filex_stub.h"
#include "nx_http_server.h" //必ず「nx http server.h」の上に追記
```

- ⑤ 「Cross ARM C Compiler」 「Preprocessor」 に 「NX\_HTTP\_NO\_FILEX」 を追加する。

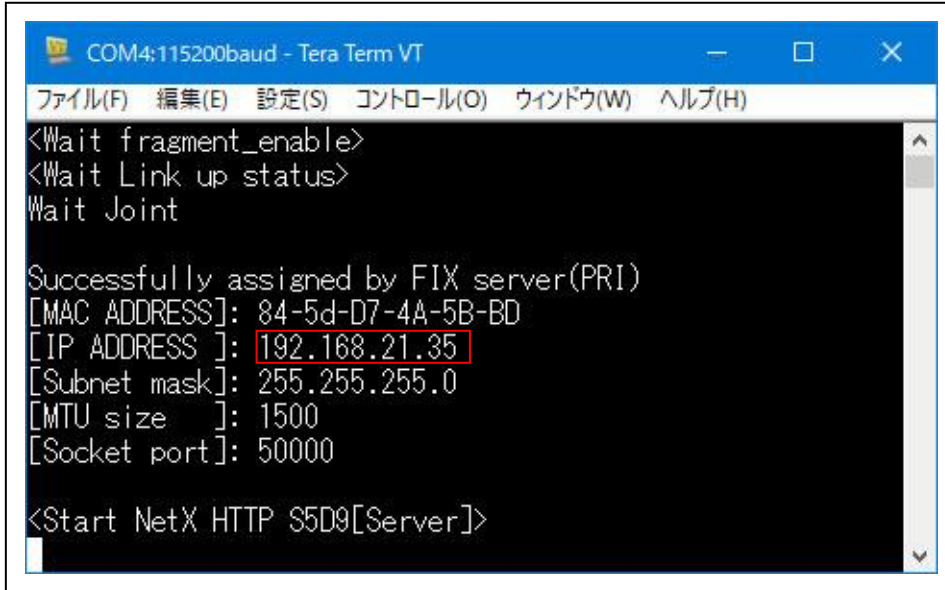


以上の作業が必要です。

### 5-3. サンプルの動作説明

<HTTP server Thread>

- ① WiFi ルーターに Joint する。
- ② Joint 成功后、固定 IP アドレス情報を Term 画面に表示する。



```

COM4:115200baud - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
<Wait fragment_enable>
<Wait Link up status>
Wait Joint

Successfully assigned by FIX server(PRI)
[MAC ADDRESS]: 84-5d-D7-4A-5B-BD
[IP ADDRESS ]: 192.168.21.35
[Subnet mask]: 255.255.255.0
[MTU size   ]: 1500
[Socket port]: 50000

<Start NetX HTTP S5D9[Server]>
  
```

【固定 IP アドレス定義】

```
http_server_fix_thred_entry: #define MY_IP IP_ADDRESS (192,168,21,35)
```

- ③ Windows PC のインターネット ブラウザを使用して HTTP Server にアクセスする。



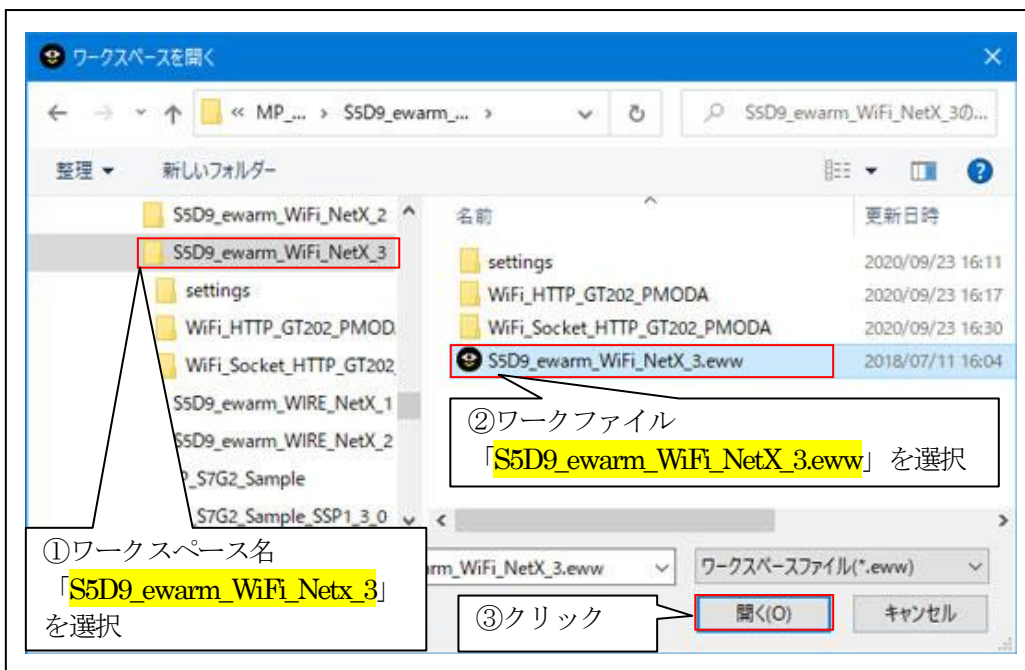
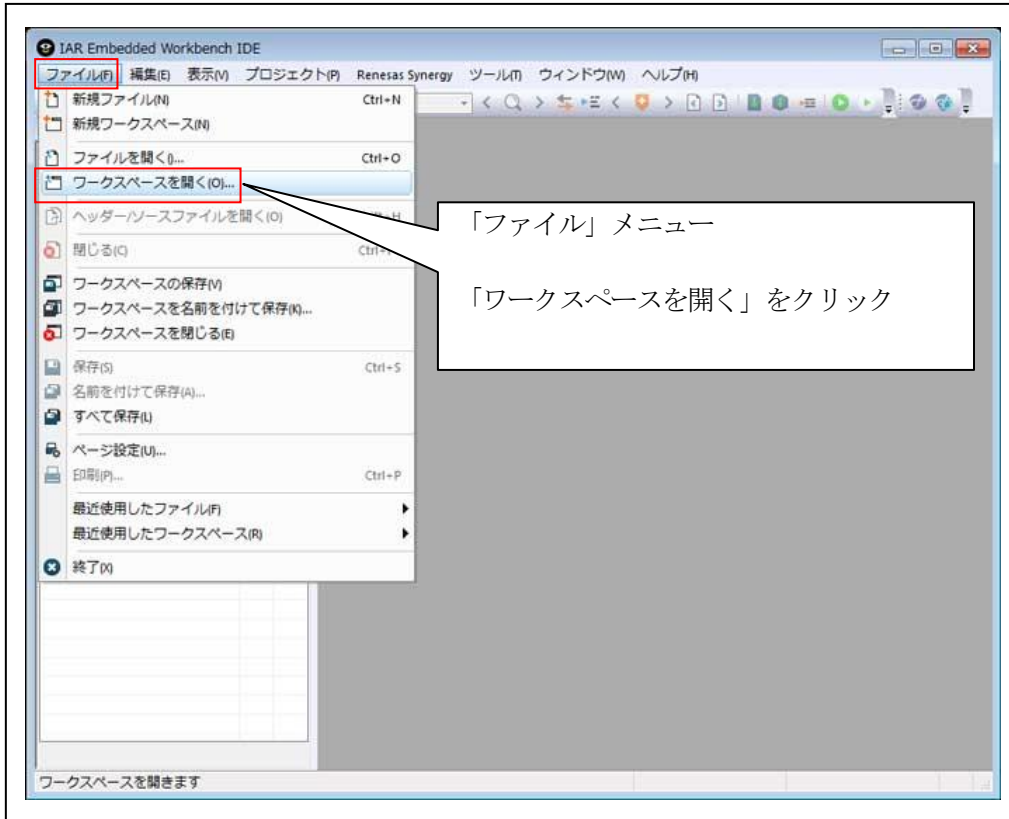
<Socket server Thread>

- ① Windows PC のコネクション「接続」を待つ。  
接続完了にて、Term 画面「<The connection established it.>」に表示する。
- ② Windows PC からの受信データを待つ。  
受信完了にて、Term 画面「<TCP data receive length(%d) %02X>”,length, rx\_buff[0]」と受信バイト数と受信データの1バイト目データを表示する。
- ③ ⑤で受信したデータを Windows PC にエコーバックとして送信する。  
送信完了にて、Term 画面「<TCP data send length(%d) %02X>”,length, tx\_buff[0]」と送信バイト数と送信データの1バイト目データを表示する。  
送信不可の場合、Term 画面「<TCP data send failed!>」と表示して終了。
- ④ Windows PC 側でディスコネクション「切断」するまで、④からの処理を繰り返す。
- ⑤ Windows PC 側でディスコネクション「切断」した場合は、③からの処理を繰り返す。



6. 「S5D9\_ewarm\_WiFi\_NetX\_3」をインポートする。

6-1. ワークスペース名の指定



6-2. コンフィグレータの起動

☆詳細操作は「ewarm\_synergy\_Import.pdf」の2-3項を参照して下さい。

## 7. デバッグ操作

### 7-1. デバッグ構成の設定

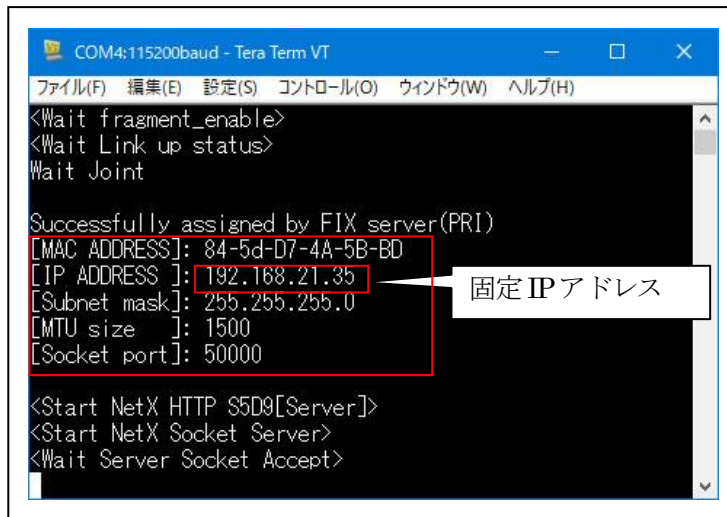
☆詳細操作「J-Link版」は「ewarm\_synergy\_Import.pdf」の3-1項を参照して下さい。

☆詳細操作「I-jet版」は「ewarm\_synergy\_Import.pdf」の3-2項を参照して下さい。

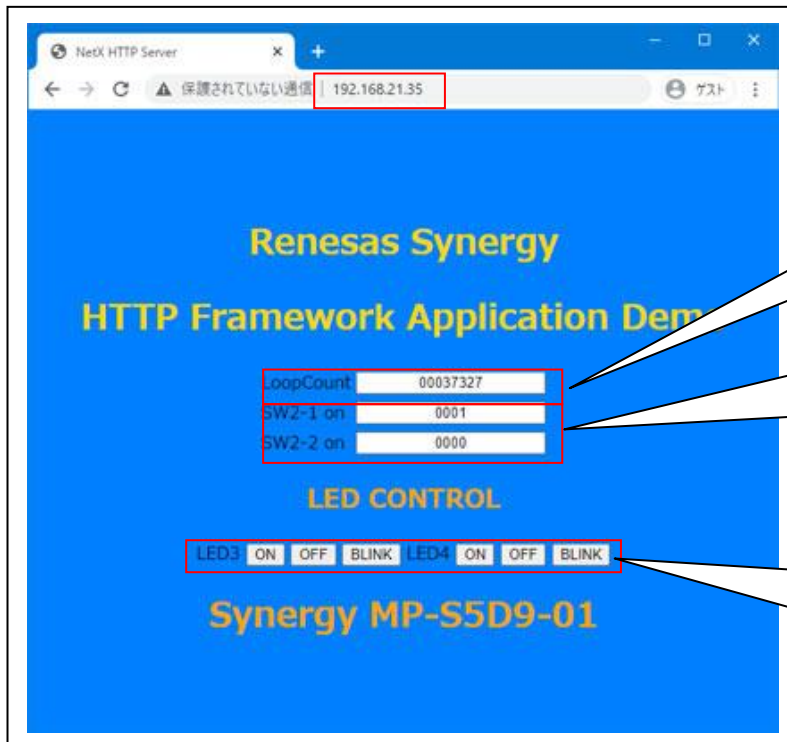
### 7-2. デバッグの開始

☆詳細操作は「ewarm\_synergy\_Import.pdf」の3-3項を参照して下さい。

<WiFi\_Socket\_HTTP\_GT202\_PMODA 実行画面>



<インターネット ブラウザ実行画面>



The screenshot shows a web browser window titled "NetX HTTP Server" with the address bar displaying "192.168.21.35". The main content of the page is blue and contains the following text and controls:

**Renesas Synergy**  
**HTTP Framework Application Demo**

LoopCount: 00037327  
 SW2-1 on: 0001  
 SW2-2 on: 0000

**LED CONTROL**

LED3 ON OFF BLINK LED4 ON OFF BLINK

**Synergy MP-S5D9-01**

Three callout boxes provide additional information:

- Pointing to the LoopCount field: "http\_server\_thread の Loop counter を 5sec 周期で表示"
- Pointing to the SW2-1 and SW2-2 fields: "MP 基板上的 SW2-1/SW2-2 の ON/OFF を 5sec 周期で表示"
- Pointing to the LED control buttons: "MP 基板上的 LED3/LED4 の ON/OFF/BLINK を指示"

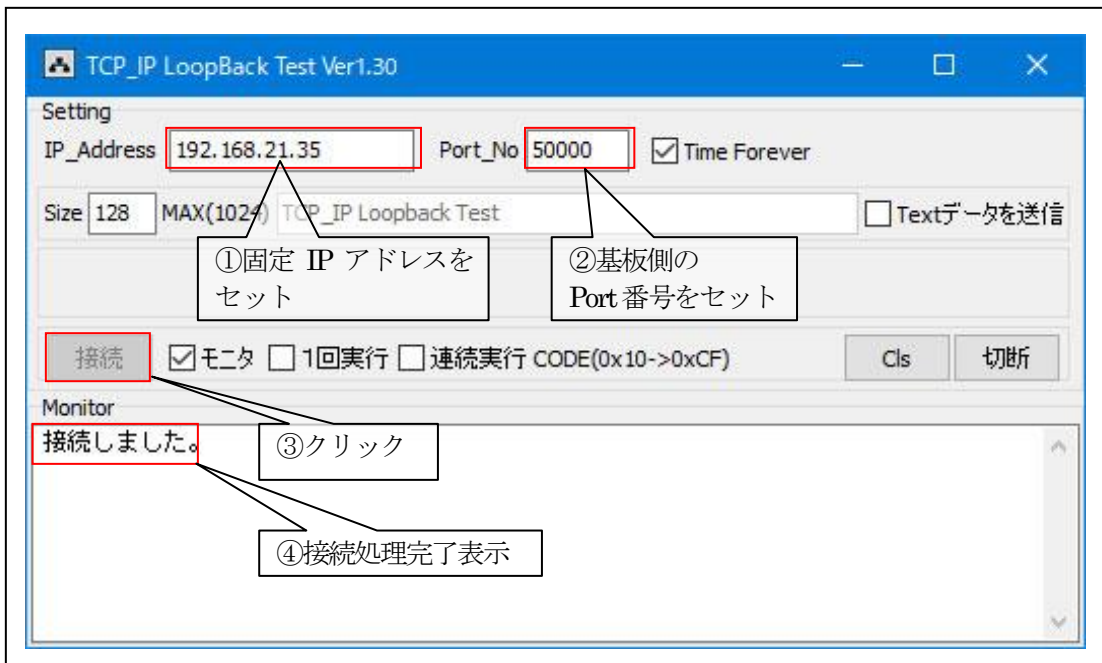
### 7-3. Windows PC側のテスト用プログラムを使用して動作確認

1) 「TCP\_IP\_TEST」を起動する。

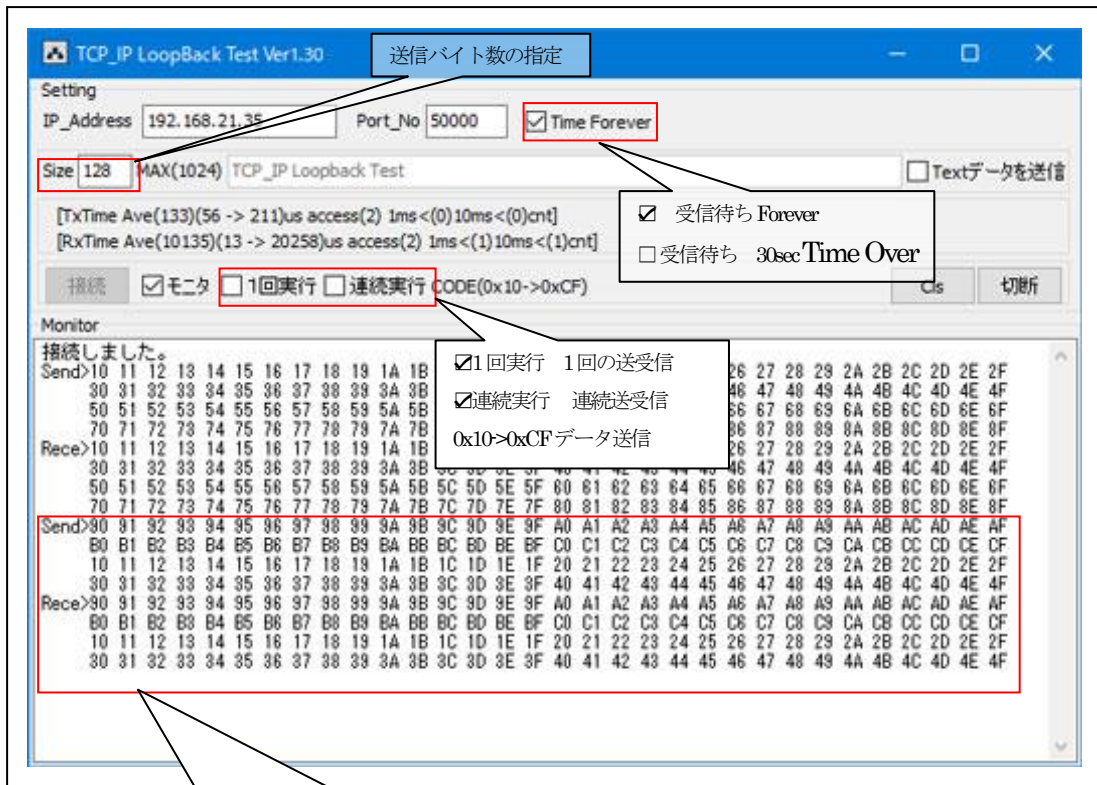
プログラム場所【ご購入 CD¥MCU サンプルプログラム¥\_PC\_Test】



2) TCP/IP Portを「接続」する。



3) ループバック送受信を確認する。

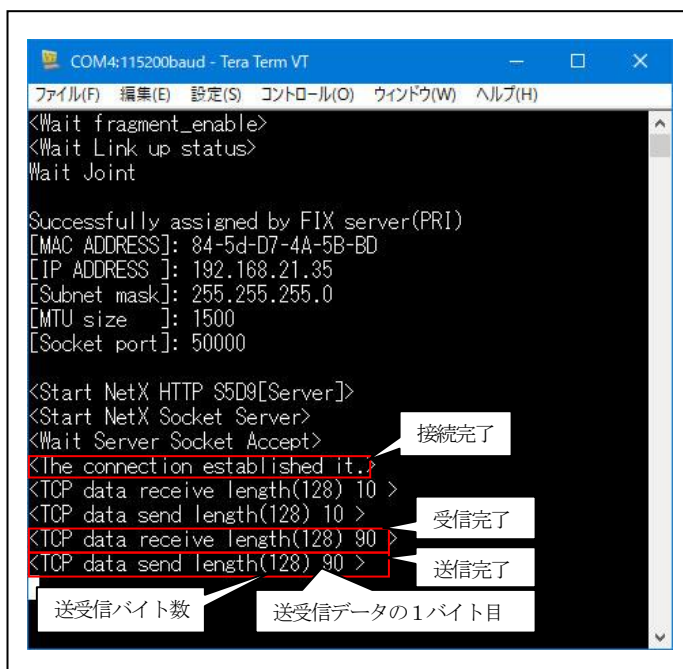


Send>0x10>0xCFを順次インクリメントして送信  
Rece>ループバックにてデータを受信して照合する。

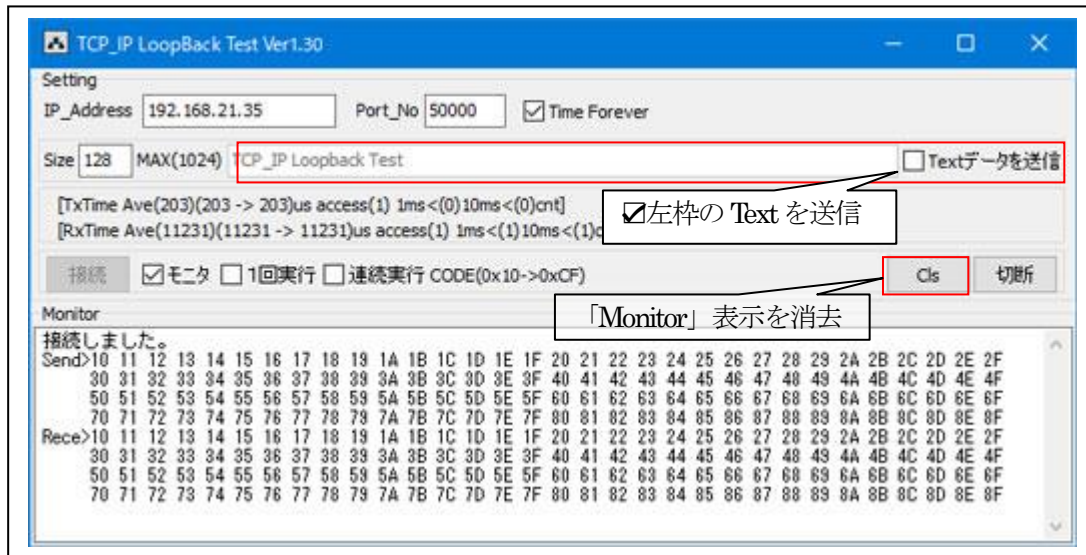
【Error 表示】

- ・受信待ち 30sec Time Over 表示 「"Receive Time Over Error!!"」
- ・送信と受信データの照合エラー表示 「"Send <=>Rece 照合 Error!!"」

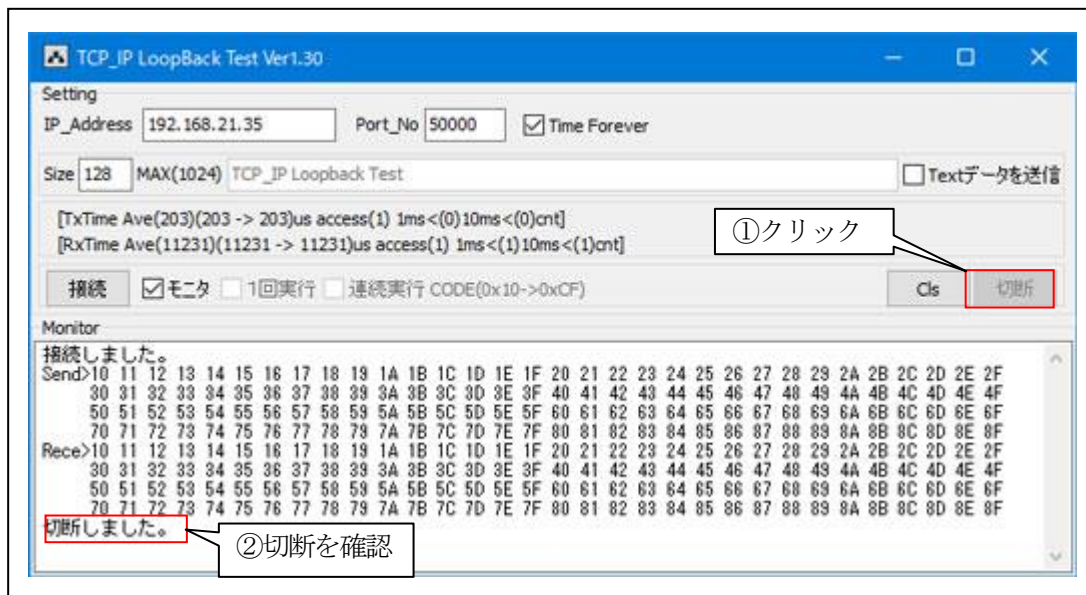
<Term 画面 MP-S5D9-01 側の表示>



4) その他の説明



5) TCP/IP Portを「切断」する。



7-4. デバッグの終了

☆詳細操作は「[ewarm\\_synergy\\_Import.pdf](#)」の3-4項を参照して下さい。

## 8. 注意事項

- ・本文書の著作権は、エーワン（株）が保有します。
- ・本文書を無断での転載は一切禁止します。
- ・本文書に記載されている内容についての質問やサポートはお受けすることが出来ません。
- ・本文章に関して、ルネサス エレクトロニクス社への問い合わせは御遠慮願います。
- ・本文書の内容に従い、使用した結果、損害が発生しても、弊社では一切の責任を負わないものとしてします。
- ・本文書の内容に関して、万全を期して作成しましたが、ご不審な点、誤りなどの点がありましたら弊社までご連絡くだされば幸いです。
- ・本文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

## 9. 商標

- ・EWARMは、IAR システムズ株式会社の登録商標、または商品名称です。
- ・Renesas Synergy<sup>TM</sup>および S3A7/S5D9/S7G2は、ルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標、または商品名です。
- ・その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

## 10. 参考文献

- ・「S3A7 ユーザーズマニュアル ハードウェア編」 ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ・「S5D9 ユーザーズマニュアル ハードウェア編」 ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ・「S7G2 ユーザーズマニュアル ハードウェア編」 ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ・ルネサス エレクトロニクス株式会社提供のサンプル集
- ・「IDE プロジェクト管理およびビルドガイド」 IAR システムズ株式会社
- ・「SSP vx.x.x User's Manual」 ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ・「X-Ware Component Documents for Renesas Synergy<sup>TM</sup>」 ルネサス エレクトロニクス株式会社
- ・その他

〒486-0852

愛知県春日井市下市場町 6-9-20

エーワン株式会社

<https://www.robin-w.com>

